

## ◆今期間のポイント

## ＜主要じょう乱の概要＞

- 4日から5日にかけて、前線が西日本から東日本付近に停滞し、前線上の低気圧が西日本から東日本付近を通過して日本の東へ進む。
- 6日は、低気圧が発達しながら日本の東へ進み、前線は日本の南へ南下する。大陸の高気圧が日本付近へ張り出し西高東低の気圧配置となる。
- 7日から8日にかけて、発達した低気圧が千島近海からカムチャツカの東へ進み、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。
- 8日は、東シナ海に気圧の谷が進む。

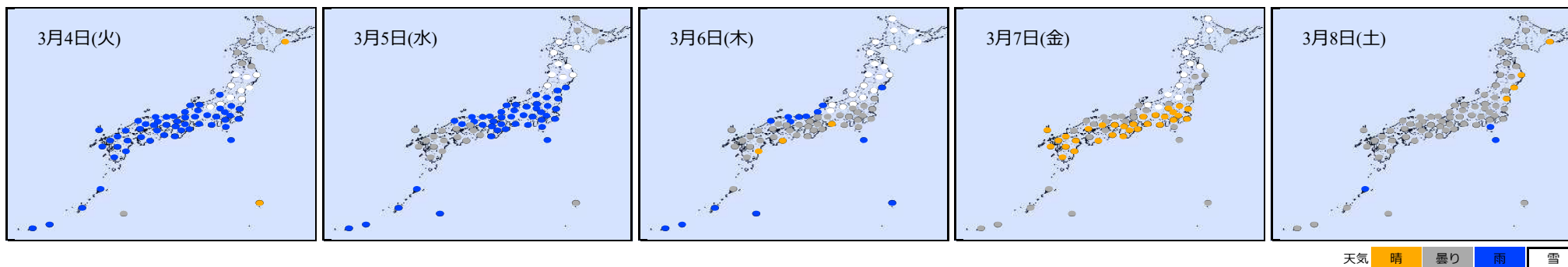
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 4日から5日頃は、前線や低気圧の影響により、西日本から北日本にかけては降水量が多くなり、積雪の多い地域では雪解けが進むおそれがある。なだれや融雪に注意。また、低気圧の動向や寒気の流れ込みの程度によっては、北日本から東日本の太平洋側で警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

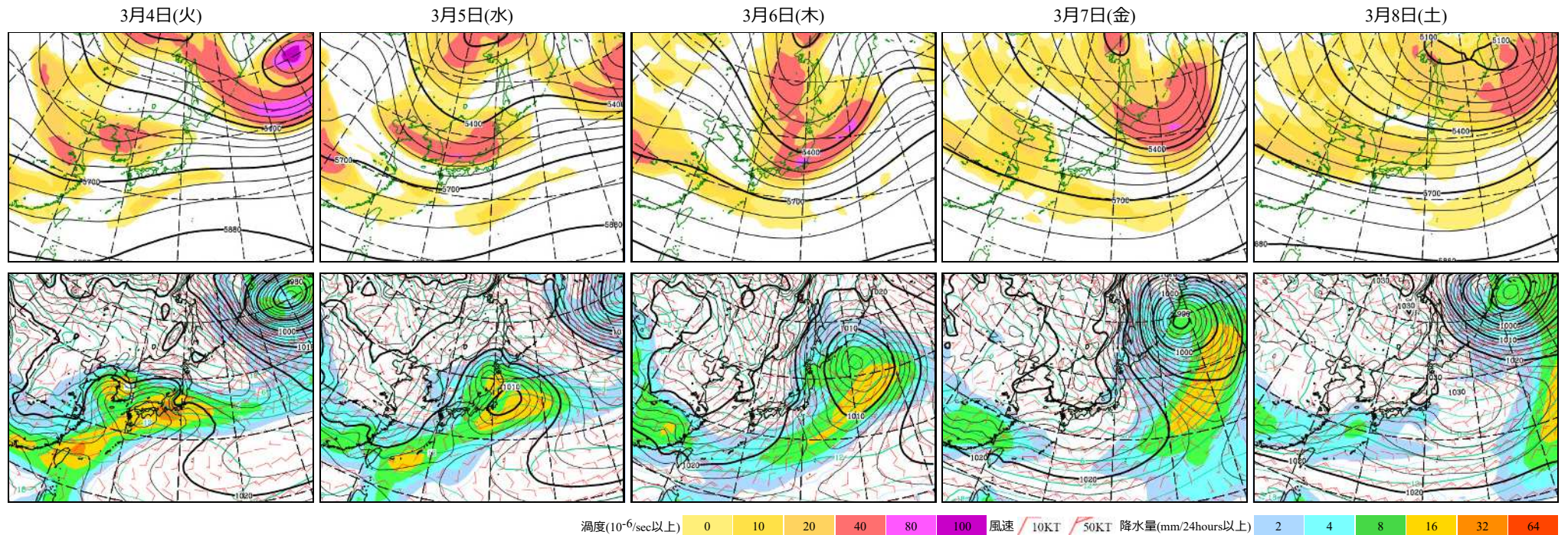
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



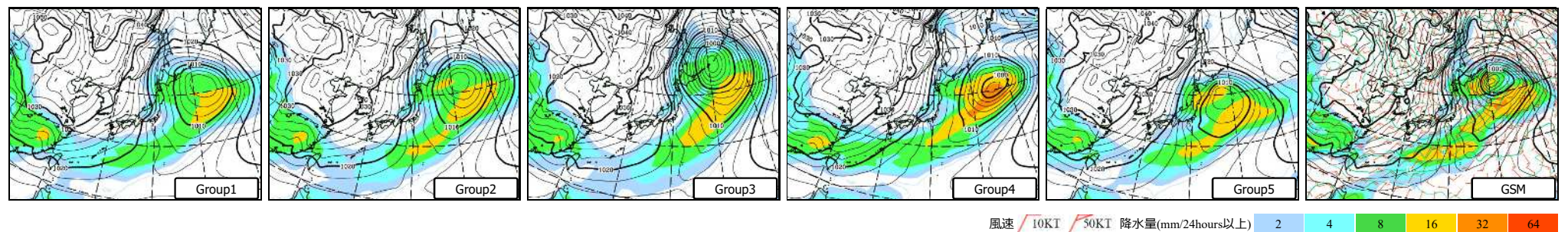
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本の太平洋側は、雲が広がりやすく4日から5日にかけては雨の降る所が多いが、7日は晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月6日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、5日に日本海に発生する低気圧が明瞭となった。6日から7日にかけて日本の東から千島近海へ進む低気圧の速度が遅くなった。
- 5日に日本海で発生して東進する低気圧の影響で、6日は北日本で降水確率ガイダンスが高くなった所が多い。
- スプレッドは比較的小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。